

シェフ三瀧の“時事中国語調理の秘訣”

第一課の P5 の解説の手がかりに“人民币对美元的固定汇率”（米ドルに対する人民元のレート）という構文を載せました。その下の“天安门在中国人民心目中的地位”（中国人の心の中での天安門の位置）の例にも有るように、この構文では様々な介詞が使えますが、とにかく、わたしが 20 年間、“レベル”と通称されている翻訳の添削システムを続けた経験から言うと、日本人も中国人も、中文日訳で一番つまずくのがこの構文。

日本語に訳すとどうしても「人民元の」「天安門の」となるのですが、原文は“人民币”や“天安门”の後に“的”は絶対に入りません。というのも、中国人にとっては、“对”も“在”も動詞的な感覚で、“人民币”や“天安门”は“对”や“在”にとっては主語に当たるからなのです。その証拠に“对美元”や“在中国人民心目中”の後ろに動詞があれば、“人民币”や“天安门”はその介詞構造 + 動詞の正真正銘の主語になります。その場合は「人民元が」「天安門が」となります。例えば、“人民币对美元保持的固定汇率”（人民元がドルに対して保っているレート）となるわけです。

日本人が中国語の作文をするとき、よく“人民币的对美元的固定汇率”としてしまうのは、まさにこの逆バージョン的誤りと言えましょう。